

第7回 長安ロダム改造事業費等監理委員会

事業実施における課題と対応

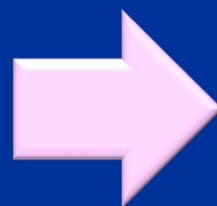
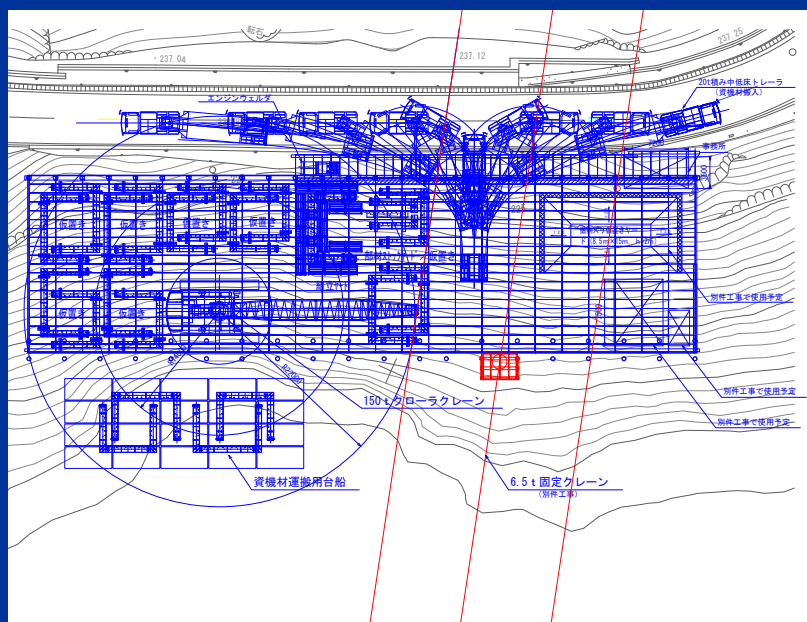
平成26年9月

那賀川河川事務所

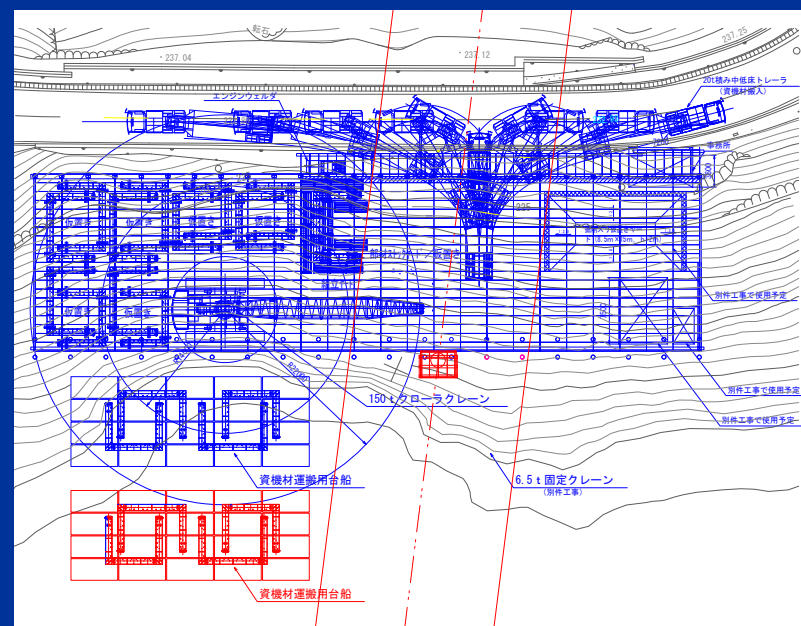
①用地取得に起因する作業構台への制約

・左岸ケーブルクレーン基礎位置について、地権者との協議により変更を余儀なくされた。
その結果、当初、想定していた貯水池内構台の使用範囲に不具合が生じ、台船を利用して作業範囲の確保を行った。

当初案



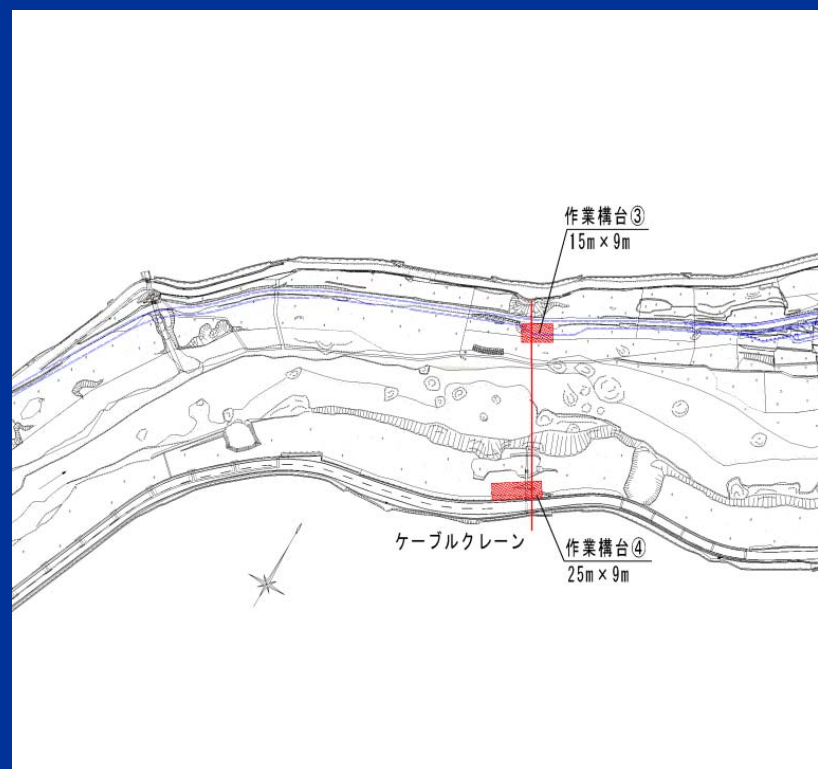
変更案



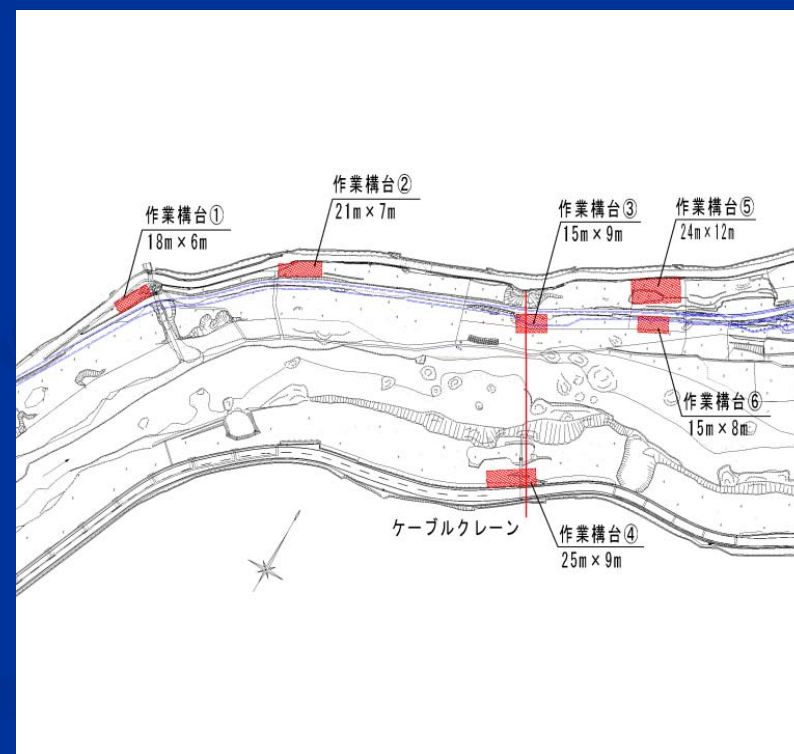
②用地取得難航に起因する工事用道路工程への制約

・用地交渉の調整が難航したため、工期の制約が発生し同時期に複数の工事を実施する必要が生じた、また、現場条件も急峻な地形、片押しでの施工条件であったが、複数の仮設構台の設置を行うことで工期の短縮を図った。

当初案

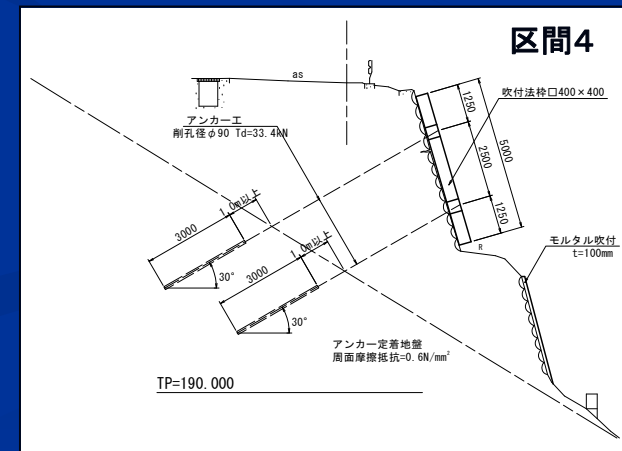
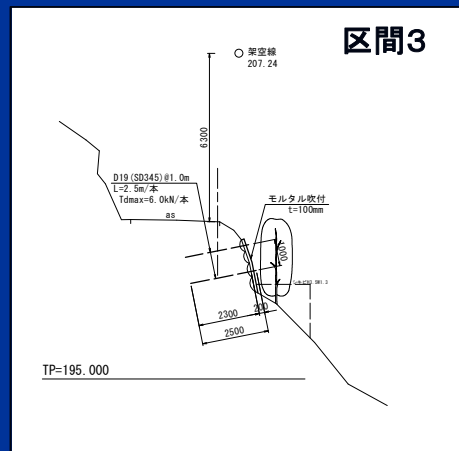
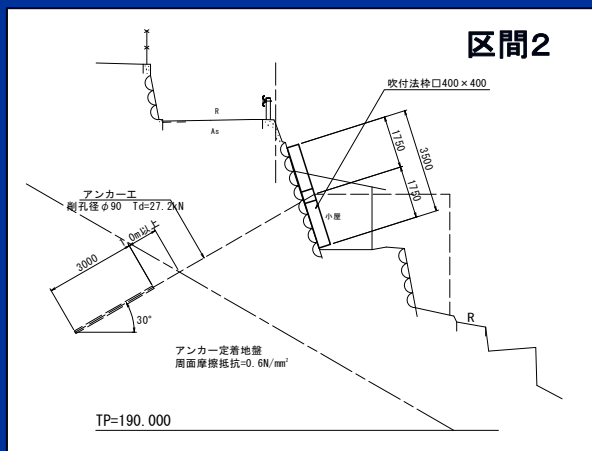
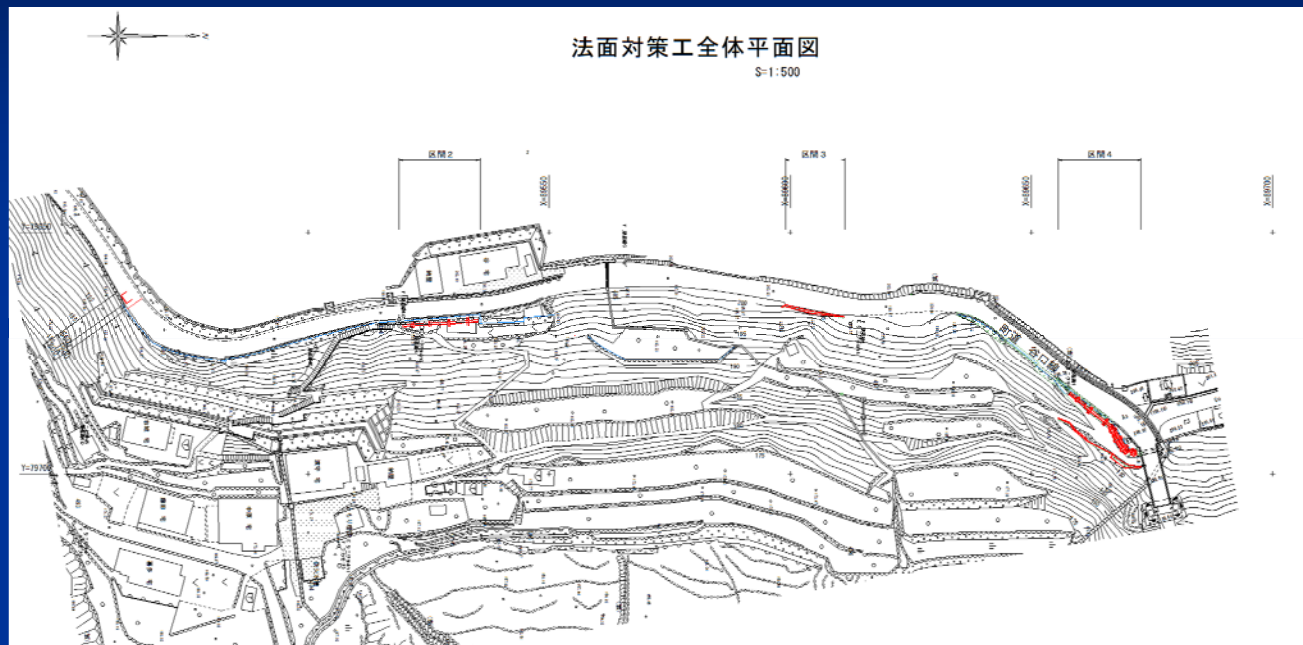


変更案



③急峻な作業条件に起因する工事用道路のトラブル

- ・工事用道路の工期を厳守するため、作業講台を複数実施することとなったが、現場条件において急峻な地形であることから、地滑りの対策を行いながらの工事となった。



④法面掘削において堅固な岩盤に起因する掘削作業への制約

- ・当初想定していた岩盤よりも堅固な地山であったため、ブレーカ掘削では工程確保が行えないことから、静的破碎剤や発破作業を併用した法面掘削となった。

当初案



ブレーカによる掘削

変更案



発破を利用したの岩掘削
火薬充てんの為のクローラードリル

⑤搬出路確保に起因する掘削土砂運搬への制約

・搬出土の運搬路としている谷口線については、別工事(工事用道路設置工事、県の堆砂除去工事等)との調整が必要であり、別工事の影響で谷口線が通行止めとなる期間については、那賀町の仮置き場に一時仮置きすることで掘削作業が止まらないように対応した。また、搬出路の補修対策を行いながら工事を進めた。



⑥挙動把握を行いながらの大規模切削工事の実施

・大規模な法面掘削工事や、国内最大級の堤体切削を実施するにあたり、異常な挙動をいち早く察知し対策及び体制が取れるよう、挙動観測機器（孔内傾斜計（法面部・堤体部）、継目計、揚圧力計の自動化、GPS観測機等）の設置をおこなう。

